

## 研修受講履歴の記録（ポートフォリオ）の記載事項について（案）

## I 校外研修（総合教育センターの研修）

当該年度に受講した校外研修のうち、総合教育センターが実施する研修（自由応募のeラーニング講座を含む）について、教員サポートシステムから自動的に反映される。

## II 校外研修（主なものを3つ程度で）

当該年度に受講した校外研修（教育事務所、市町村教委や研究会等が主催する研修）のうち、主なものを3つ程度各教員が記載する。情報提供や説明に留まる連絡会や会議に当たるものは記録の対象としない。備考欄には、期日や主催者等を記載する。ただし、年間3回以上実施された研修については「通年」とする。

## III 校内研修（主なものを3つ程度で）

当該年度に受講した校内研修（研究授業、研究実践、現職教育研修会等）のうち、主なものを3つ程度各教員が記載する。備考欄には、期日を入力する。ただし、年間3回以上実施された研修については「通年」とする。

## IV 主な自己啓発研修（記録は任意）

当該年度に受講した主な自己啓発研修を、主題が分かるように各教員が記載する。記録は任意とし、勤務時間内に受講した研修（職専免研修を含む）を対象とする。ただし、勤務時間外や休日、週休日に行った自主的な研修についても、参考となるものは任意で記録してもよい。備考欄には、期日、主催者、会場等を記載する。

## V 研修講師を務めた履歴

当該年度において、職務として講師を務めた研修について各教員が記載する。備考欄には、期日、主催者、対象者、会場等を記載する。

## VI 法定研修等受講履歴の累積

初任者研修、新規採用者研修、中堅教諭等資質向上研修等の法定研修や悉皆研修、認定講習、大学院修学休業により履修した大学院の課程等を記入し、累積していく。

## ※ I～Vに共通

「育成指標の主な視点」には、研修の目的や内容を愛知県教員育成指標に照らし、本人が重点と考えるものについて、教員サポートシステム上で閲覧できる愛知県教員育成指標に付されている記号番号を、各教員が入力する。

○1年間のまとめとして、「研修を通じて得た気づきや学び、成長等」及び「自分を高めるための今後の課題、研修受講希望等」を、それぞれ200字程度で記入する。

※常勤講師については、教員サポートシステムのポートフォリオは使用しないが、同様の項目をデータファイルにまとめ、記録し、校長等との面談に活用してもよい。非常勤講師は、特に記録を必要としない。

## 令和〇年度 学び続ける教員のための研修の足跡【研修受講履歴】

| I   | 校外研修（総合教育センターの研修）<br>※教員サポートシステムの履歴を反映 | 育成指標の<br>主な視点 | 備考                               |
|-----|--|---------------|----------------------------------|
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
| II  | 校外研修（主なものを3つ程度で）                       | 育成指標の<br>主な視点 | 備考（期日、主催者等）<br>※年間3回以上のものは通年と記入。 |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
| III | 校内研修（主なものを3つ程度で）                       | 育成指標の<br>主な視点 | 〇月〇日／通年（年間3回以上のものは通年と記入）         |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
| IV  | 主な自己啓発研修（記録は任意）<br>※主な主題が分かるように記録する。   | 育成指標の<br>主な視点 | 〇月〇日／通年（複数回の場合は通年と記入）※主催者、会場等も記入 |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
| V   | 研修講師を務めた履歴                             | 育成指標の<br>主な視点 | 〇月〇日／※主催者、対象者、会場等も記入             |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |
|     |  |               |                                  |

「研修を通じて得た気づきや学び、成長等」（200文字程度）

「自分を高めるための今後の課題、研修受講希望等」（200文字程度）

| VI | 法定研修等受講履歴の累積 | 受講年度 | 備考 |
|----|--------------|------|----|
|    |              |      |    |
|    |              |      |    |
|    |              |      |    |
|    |              |      |    |
|    |              |      |    |

## 令和〇年度 学び続ける教員のための研修の足跡【研修受講履歴】&lt;記入例&gt;

| I   | 校外研修（総合教育センターの研修）<br>※教員サポートシステムの履歴を反映 | 育成指標の<br>主な視点 | 備考                                   |
|-----|--|---------------|--------------------------------------|
|     | 特別支援学級担当教員初心者研修                        | 8A            |                                      |
|     | 教育研究リーダー養成研修                           | 6B            |                                      |
|     | OJTの推進について                             | 9B            |                                      |
|     |  |               |                                      |
| II  | 校外研修（主なものを3つ程度で）                       | 育成指標の<br>主な視点 | 備考（期日、主催者等）<br>※年間3回以上のものは通年と記入。     |
|     | 市教育研究会                                 | 4             | 9/10、(主催)市校長会                        |
|     | ハブスクール地区別授業研修                          | 6B            | 11/5、(主催)高等学校教育課                     |
|     | NITS・オンライン研修「生徒指導について」                 | 7A            | 通年、(主催)教職員支援機構(NITS)                 |
|     |  |               |                                      |
| III | 校内研修（主なものを3つ程度で）                       | 育成指標の<br>主な視点 | 〇月〇日／通年（年間3回以上のものは<br>通年と記入）         |
|     | ICTを活用した授業づくり                          | 6B            | 8/5                                  |
|     | 授業研究及び検討会                              | 7B            | 10/9                                 |
|     | 特別な支援を要する児童生徒の理解について                   | 8B            | 12/15                                |
|     |  |               |                                      |
| IV  | 主な自己啓発研修（記録は任意）<br>※主な主題が分かるように記録する。   | 育成指標の<br>主な視点 | 〇月〇日／通年（複数回の場合は通年と記<br>入）※主催者、会場等も記入 |
|     | 講演会「今後の英語教育の方向性」                       | 6C            | 8/20、(主催)愛知教育大学、<br>(会場)愛知教育大学       |
|     | シンポジウム「新学習指導要領を踏まえた学習評価<br>の在り方」       | 6C            | 8/23、(主催)中部〇〇教育学会<br>(会場)ウイंकあいち     |
|     | オンライン研修「一人一台端末の活用」                     | 6B            | 9/12、中部ICT研究会                        |
|     |  |               |                                      |
| V   | 研修講師を務めた履歴                             | 育成指標の<br>主な視点 | 〇月〇日／※主催者、対象者、会場等も記<br>入             |
|     | 小中学校中堅教諭資質向上研修【前期】教科<br>指導研修(外・英)      | 6B            | 10/20、(主催)総合教育センター、<br>(会場)総合教育センター  |
|     |  |               |                                      |
|     |  |               |                                      |

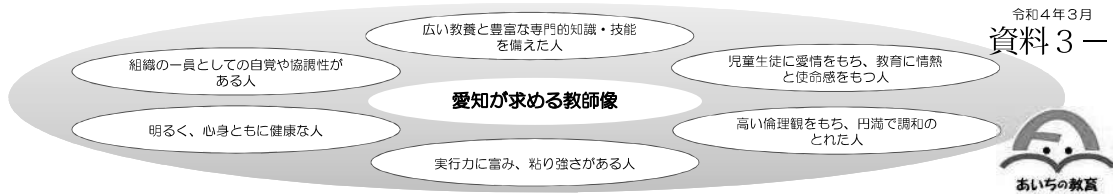
「研修を通じて得た気づきや学び、成長等」（200文字程度）

「自分を高めるための今後の課題、研修受講希望等」（200文字程度）

| VI | 法定研修等受講履歴の累積        | 受講年度  | 備考             |
|----|---------------------|-------|----------------|
|    | 大学院修学休業制度による大学院課程履修 | R2・R3 | 兵庫教育大学大学院〇〇コース |
|    | 中学校中堅教諭資質向上研修【後期】M  | R5    |                |
|    | 中学校中堅教諭資質向上研修【後期】S  | R6    |                |
|    | 特別支援学級担当教員初心者研修     | R7    |                |
|    |                     |       |                |
|    |                     |       |                |



# 愛知県 教員育成指標 【教諭】



| ステージ  | 愛知県が求める<br>着任時の姿        | 第1ステージ<br>教員としての<br>基盤を固める <b>A</b>   | 第2ステージ<br>ミドルリーダーとして<br>推進力を発揮する <b>B</b>   | 第3ステージ<br>シニアリーダーとして<br>牽引力を発揮する <b>C</b>   |  |
|-------|-------------------------|---|---|---|--|
| 資質・能力 |                         |   |   |   |  |
| 素養    | 教育的愛情・使命感・責任感           | ○児童生徒の伸びようとする姿を捉え、愛情をもって寄り添い、支え続け、児童生徒の成長に喜びを感じる。<br>○児童生徒の未来を真剣に考えるとともに、将来を担う児童生徒の成長を請け負う使命感や責任感を自覚する。   |   | 1   |  |
|       | 倫理観・人間性・行動力             | ○高い倫理観をもち、法令を遵守し、児童生徒の手本となるような立ち振る舞いを心がけ、児童生徒との信頼関係を築こうとする。<br>○児童生徒の目標・憧れとなるような魅力的な人間の姿を追求する。<br>○自ら行動し、粘り強く、職務に取り組もうとする。  |   | 2   |  |
|       | 自己教育力・創造的思考力            | ○幅広い教養と高い専門性を備えつつ、常に自分の姿を振り返り、向上心を忘れることなく自ら学び続ける意欲をもっている。<br>○新たな問題に直面しても、柔軟に対応するとともに、常に創意工夫しながら物事に取り組んでいこうとする。   |   | 3   |  |
|       | コミュニケーション力              | ○自分の考えを伝えるとともに、周囲の状況や相手の思いを踏まえ、共通理解を図りながら協働的に行動する。  |   | 4   |  |
| 指導力   | 児童生徒理解 <b>5</b>         | ○児童生徒一人一人に愛情をもって接し、児童生徒との関係の中で、心情を捉える。<br>○学級・学年への帰属意識を児童生徒に育成する姿勢をもつ。<br>○家庭環境などの背景も踏まえて児童生徒を理解し、個々に応じた成長を促そうとする。  | ○児童生徒の情報共有の場を設定することで、児童生徒を取り巻く状況を的確に捉え、児童生徒の理解を深める。<br>○学級・学年などの集団をリードする児童生徒を養成する姿勢をもつ。   | ○様々な情報に基づいて児童生徒一人一人の状況や変化を的確に捉え、適切な指導方針を立て、児童生徒を理解しようとする。<br>○児童生徒が互いを尊重し、学級・学年及び学校全体をよりよくしようという意識と広い視野をもてるように促す。   |  |
|       | 学習指導 <b>6</b>           | ○適切な発問や読みやすい板書、ICTの活用、意図的な環境の構成などの基本的な授業力を身に付け、児童生徒の主体的な学びを引き出す指導力を培い、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けた授業改善に取り組む。<br>○児童生徒の実態を把握し、授業のねらいを明確にして教材教具の工夫をするなど、事前の教材研究の大切さを理解して授業をする。<br>○他の教員から学ぶなど自分の指導を改善しようとする。 | ○児童生徒の身近な社会・生活につながるような授業・単元の構想の工夫をし、ICTも活用しながら、主体的な学びを支える指導技術に習熟し、個別最適な学びや協働的な学びの実現を図る。<br>○自らの授業改善、指導力向上に努めるとともに、専門性を高め、他の教員の授業に対して適切な助言をする。<br>○校内研究会、校外研修会の企画・運営に携わり、校内研究体制の推進を図る。 | ○高い専門性を基に、周りにある教育資源や新しい指導方法、ICTを効果的に取り入れ、他の教員の模範となる主体的な学びの実現に向けた授業を行う。<br>○学力向上や授業改善、授業評価などの視点を常にもち、学年や教科の授業改善をリードする。<br>○学校全体の学習指導上の諸課題を把握し、校内の教育課程や授業づくりについて改善の視点で考え、組織的に実践を進める。                |  |
|       | 生徒指導 <b>7</b>           | ○生徒指導及びキャリア教育の意義を踏まえ、個や集団を指導するための手だてを知り、実践しようとする。   | ○個性の伸長、社会的資質や行動力の向上などの「生き方教育」「キャリア教育」とも共通する視点をもって児童生徒に対応する。<br>○児童生徒一人一人の課題を捉えたとともに、保護者の思いを理解し、保護者や他の教職員と協力しながら組織的・継続的に児童生徒に対応する。   | ○学年・学校全体の児童生徒の特性や状況を的確に捉え、方針や手だてを示しながら、関係教職員や保護者と協力し、組織的・継続的に児童生徒に対応する。<br>○経験を踏まえて問題提起や情報提供をしながら、経験の浅い教職員に適切な助言をする。<br>○関係諸機関と連携して、指導の取組方針を的確に示し、具体的に指導する。                                       | ○個性の伸長、社会的資質や行動力の向上の視点をもって、組織的な取組を促す。<br>○生徒指導を組織的・計画的に行うための長期的な見通しをもち、教職員に対して指導・助言をする。<br>○他の教職員の抱える生徒指導・進路指導上の問題に気付き、適切な助言をする。<br>○関係諸機関と連携を深め、問題解決のための体制づくりをする。 |
|       | 多様な個性への理解と教育支援 <b>8</b> | ○人権感覚をもつとともに、児童生徒の個性を尊重し、個に応じた指導・支援をする必要性を認識している。<br>○特別支援教育、外国人児童生徒等教育など特別な配慮を必要とする児童生徒の多様な背景を理解しようとするとともに、インクルーシブ教育の大切さを認識している。   | ○個の特性や背景を捉えながら、適切な実態把握をすることができる。<br>○特別な支援を必要とする児童生徒に対して、個に応じた指導を計画的に推進する。<br>○実践を通して、児童生徒の多様性への理解を深めるとともに、合理的配慮に基づいた指導・支援を行う。  | ○児童生徒一人一人の実態や特性を踏まえた上で、関係教職員と連携し、組織的な指導や支援が行えるように調整する。<br>○児童生徒の多様性を理解するとともに、必要に応じて関係諸機関や専門家などとの連携を推進する。<br>○教育支援に関する情報を確実に引き継ぎ、切れ目のない支援を推進する。  | ○校内委員会など組織的・継続的な指導や支援体制を整え、学校全体の視点でインクルーシブ教育を推進する。<br>○人権や個性の価値観を大切にする教育の推進者として、経験の浅い教職員の相談や助言を行う。<br>○関係諸機関や専門家などとの連携を積極的に図る。                                     |
|       | 学級経営・学年経営・学校運営 <b>9</b> | ○理想とする児童生徒の姿や自分自身の姿をもち、その実現に向けて、実践しようとする。<br>○学校教育の意義や教育に関する今日的な課題などの教育に関わる情報を積極的に得ようとしている。   | ○学校教育目標を理解し、児童生徒の実態に合わせ、学級経営や教科経営の方針を立て、一貫性のある指導を行う。<br>○学級内における良好な人間関係づくりを行う。<br>○学年主任や他の教職員と協力しながら学年経営に参画する。<br>○校内組織での自らの役割を自覚し、計画的に自らの職務を遂行する。                                    | ○学年や教科、分掌などの運営の中核となって、学校教育目標の実現に向けて工夫改善する。<br>○分担された任務分掌について、目標や改善の視点を明確にして調整・実行する。<br>○児童生徒同士のコミュニケーションを促進するとともに、個の特性を的確に捉え、学年や分掌における課題に応じた適切な対応策を提案する。<br>○経験の浅い教職員に積極的にアドバイスをし、学校全体の組織力の強化を図る。 | ○学年経営や学校運営に参画し、課題の解決を図るとともに、他の教職員の学級・学年経営に適切な支援、助言を行う。<br>○学校運営について創造的なビジョンの構想やプランの構築に参画し、改革意識をもって教育活動を活性化させる。   |
|       | 学校安全・危機管理 <b>10</b>     | ○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。  | ○児童生徒の安心安全を第一に考え、危険を予見するとともに対処する。<br>○安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行う。  | ○安全に対する危機意識をもち、積極的に情報収集をし、課題を明らかにする。<br>○学校の安全管理体制を点検し、課題解決に向けて積極的に提案、改善を行う。  | ○児童生徒の平常時の安全確保、事故などの未然防止、再発防止を組織的に推進する。<br>○環境を整え、危険の低い教職員の相談や助言を行う。<br>○学校と家庭や地域などとの協力体制を確立する。  |
|       | 同僚との連携・協働 <b>11</b>     | ○社会人として良識ある言動をし、円滑な人間関係をつくらうとする。  | ○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に物事を進めようとする。<br>○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善を進める。   | ○チームリーダーとして、教職員一人一人のよさを引き出し、それぞれの力を生かして対応できるようにリードする。<br>○互いの課題や悩みに気付き、支え合える環境をつくるとともに、経験の浅い教職員を積極的に支援する。   | ○自らの経験を生かし、自校の課題に中心となって取り組み、組織全体の取組を改善する。<br>○学校全体における教職員の特性を踏まえ、役割分担を調整するとともに、教職員の経験に応じた効果的な人材育成の環境を整える。  |
|       | 地域社会との連携・折衝 <b>12</b>   | ○教育公務員としての自覚をもち、社会とのつながりを意識して行動する。<br>○家庭、地域、関係諸機関との連携の重要性を理解し、積極的に関わろうとする。   | ○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。<br>○地域、関係諸機関と必要な連携をとったり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対処する。  | ○地域、関係諸機関と良好な関係を築くとともに、経験の浅い教職員を積極的に支援する。<br>○他校、異校種の教職員との連携・協力を推進する。   | ○家庭、地域、関係諸機関へ向けての情報発信とともに、地域資源（ひと・もの・こと）の活用を推進する。<br>○家庭、地域、関係諸機関からのニーズの情報収集に努め、協働によって教育活動を推進する。<br>○地域に貢献する活動を企画・調整する。  |

※特別支援学校においては幼稚部を含む。